

第3回伊賀市観光振興検討会議 議事録（要旨）

開催日時：平成23年11月1日（火） 15：00～17：15

開催場所：伊賀市役所 第11会議室

委員、アドバイザー出席者（9人）

委員長	廣澤 浩一	（社団法人伊賀上野観光協会）
委員	奥澤 重久	（いがまち観光協会）
委員	田増 治雄	（島ヶ原観光協会）
委員	竹森 一之	（大山田観光協会）
委員	重藤 久紘	（青山観光協会）
委員	宮崎 慶一	（上野商工会議所観光部会）
委員	川上 香代子	（伊賀市商工会）
委員	首藤 善樹	（伊賀市文化財保護審議会委員）
アドバイザー	西川 哲司	（三重県観光交流室）

欠席者（3人）

副委員長	三苫 悟	（社団法人大山田農林業公社）
委員	服部 俊慶	（阿山観光協会）
アドバイザー	服部 睦	（三重県観光交流室）

その他出席者（1人）

コンサルティング業者（伊賀市観光振興ビジョン策定業務受託業者）
株式会社 国際開発コンサルタンツ 山口 敦

事務局（5人）

産業建設部長	松本 秀喜	
産業建設部	商工労働観光課長	松本 浩典
産業建設部	商工労働観光課	観光振興係長 川部 千佳
産業建設部	商工労働観光課	観光振興係員 久保 敦美
産業建設部	商工労働観光課	観光振興係員 伊東 正樹

傍聴者 無し

<議事内容>

伊賀市観光振興ビジョン策定について

<主な意見（順不同）>

委員長

・平成 25 年に御遷宮がある。県もそれに合わせて条例、振興計画を制定中なので、それと整合した形で観光振興ビジョンを策定するというで宜しく願います。

事務局より資料説明

アドバイザー

・推進計画について、1-3の「光を持続的に輝かせる」の項目にも「相互的な取り組み」を記述して形を統一するといいと思う。

委員

産業観光については、一つ心配なことがあり、お客さんにパンフレットとして配られると、誤解を招くかもしれない。組紐は産業観光というより生活の中のものと思う。

委員長

・産業観光は幅が広い。地場産業をつくる場所を見せる体験観光が幅広くなっている。10年前に組紐センターをリニューアルしたが、体験観光がいずれブームになると考えていたが、それが今、生きていると思う。1000円の料金を頂くことで持続可能となっている。うまくつくっていくと観光として連携ができると思う。

- ・名阪国道沿道のドライブインを三重交通がリニューアルする計画が起きているが、そういうところで伊賀独自のものを知ってもらい、ツアー情報も提供できたらいいのではないか。単独で動いても単発で終わってしまいリピーターとしてつながらないので、そのあたりも考えることが必要だと思う。

委員

- ・共有、再発見、気付きという点に関して、伊賀の情報をひとくくりにしてまとめたマップと行事カレンダーを作ってみたので参考にさせていただきたい。

委員長

- ・こういうことを連絡協議会できちんとやっていくといい。形としてしっかり作り、一つの伊賀ということを認識してもらおうといい。一番大事なのは市民に知ってもらうことだ。市民は無料の広告塔の存在と思う。

- ・アクション・プロジェクトとして重点的、緊急的に取り組む必要があるものを挙げていくが、こういうこともあれば、というアイデアがあれば頂きたい。

委員

- ・街道を中心とした観光地図があったと思う。大和街道を桜の木で埋めたいと思っている。

- ・P3について。鉄道に関して、JR 関西線の電化を要望している。京都から草津線でお客さんが来るが、加茂で乗り換えが必要で、行政として取り組みを願いたい。

- ・観光情報を市の広報に載せるには、市の共催、後援がなくてはならず、この点は改善を願いたい。

- ・「食」について、若い世代の参加促進はいいことで、「高校生レストラン」の盛り上がりもある。総合学科のある高校、白鳳高校とあけぼの高校と一緒にできることがないだろうか。

- ・P5について。他分野との連携について、放課後子ども教室のような形の取り組みがされている。子どもの参画は望ましいとは思いますが、学校の管理が難しく、なかなか進めていきづらい状況もある。

委員長

- ・学校教育で地域のことを知ることで、人間としてのキャパシティも広がると思う。
- ・JRの電化もぜひ促進したい。
- ・県との連携ということでは、街道筋について県で強調しているので、それを進めたい。

事務局

- ・街道マップは数年前に県が作っており、それを活かすといいと思う。

委員

- ・計画を進めていくにあたって、市民がどう受け止めるか。伊賀は単体でまちまちにいろいろなことが行われていると言われている。旧村の資料館が今年廃止となったが、子どもが歴史を学ぶ場だったので残念だ。
- ・JR関西線の電化促進はなかなか難しいと思う。合併特例債を全てそれに注ぎ込むという計画も流れている。ディーゼルのままいくしかないのではないかな。

委員長

- ・地域がまちまちである、という点について、第三者的な見方から委員はどうお考えか。

委員

- ・地域間で連携していないのは実情とは思いますが、協力をお願いすれば動くのではないかなと思う。
- ・関西線はよく利用するが確かに乗り継ぎが不便と思う。
- ・大学との連携について。観光の分野の専門の先生のアドバイスをもらってはどうか。天神祭はいい祭りだが、高山や岸和田と比べれば知名度が低い。情報の発信についてもプロに相談してみてもどうか。

委員長

- ・連携については、リーダーシップをとって強引に引っ張っていく人材がなかなかいないと思う。合併の影響もあると思う。伊賀盆地の市民性もあると思う

が、知らないことは知らせていくべきと思う。

- ・鉄道は近鉄が便利なのでつい利用してしまうが、関西線の存在はやはり大きい。複線化は難しいと思うが電化はぜひ進めるべきと思う。京都から日本海方面へ向かう鉄道には、電車とディーゼルの両方が使える車両がある。

事務局

- ・JRの電化は確かに難しいと思うが、逆に電化されていない関西線の車窓風景は捨て難い。関東には映画やテレビのロケで有名な鉄道もある。

委員

- ・関西方面へ行く場合はなんとかいけるが、こちらへ戻る場合は本数が減るので不便に感ずると思う。

委員

- ・SLを走らせれば観光資源になると思うが。

事務局

- ・JRは乗客が増えないと手だてが難しいので、観光利用を促進していくしかないと思う。

委員

- ・JR東海と西日本の連携ができていないように思う。
- ・街道マップは県が作ったものの、活かしきれていないように思う。

アドバイザー

- ・アクセスは戦略的に考えるべきで、アクションプログラムに位置づけられたらいいと思う。特に遷宮がらみで、関西との足を考えるのが重要と思う。
- ・三重県は亀山の関宿と伊賀をセットにしてセールスしている。JR西日本の意識として、三重を表に出してきている。JR西日本のフリー切符などで、遷宮とセットとしてゆったりと回る旅行を考えたらいい。
- ・宿泊施設について書かれていない。滞在性を伸ばすためには宿泊に力を入れるべきと思う。民宿も含めトータルに考えたらいいと思う。

委員

- ・交通の利便性という点ではバスの利用が増えている。

委員

- ・大阪行き高速バスはほぼ満席で、なんとと言っても直通の強みがある。
- ・伊賀鉄道は赤字というがどうか。

委員

- ・鉄道に関しては、ダイヤ改善のお願い程度はできるのではないか。
- ・一つの伊賀として情報発信が大事ではないか。市からの補助がでているものだけでは伊賀の力を結集したことにはならないと思う。「伊賀盆地」というくくりで考えるべきではないか。

委員長

- ・実際、車を中心とした観光になっている。情報発信してお客さんを呼ばないと公共交通の動きは出ないので、情報発信が必要と思う。
- ・県は「街道」を重視しているのでこれと連携を。
- ・地域活性化審議会ではどんな議論がされているか？

事務局

- ・地域活性化審議会での指摘として「ナンバー2」の地位に甘んじるのではなくナンバーワンを目指すべきとの指摘もあった。
- ・また、「モクモク手づくりファーム」では観光客が囲い込まれているのが実情ではないかとの指摘もあったが、「食」は全てにつながることで連携を考えたい。
- ・子ども向け、親子向けに力を入れるべきではないかとの指摘もあったが、子ども向けのみでなく大人が楽しめるものはやはり必要ではないかと考えている。
- ・地域の取り組みに何かヒントがあれば動く可能性があるとの指摘もあった。事業者以外は観光とは関係ない、という意識は変えていくべきと思う。

委員長

・セカンド、という話だが、インバウンドを意識すべきと思う。伊勢のアンケートでは、忍者の人気は高い。忍者も大人をターゲットにしていくといい。「食」も同様である。いずれにしても施設ではリピート客の確保は難しい。

委員

・商工会でマップを作ったのでご覧頂きたい。市民が自分を知るのに活用できると思う。観光客から訊ねられたときに役に立つ。これプラスイベント情報があれば便利になると思う。

委員長

・いろいろな情報が重なって表示されているので、わかりづらいのが課題と思う。シンプルに、情報を整理して分けるといいと思う。

委員

・山林を守る取り組みについて。下草刈りなど取り組んでいる事例があったらお知らせ願いたい。

事務局

- ・市民参加で山林を守る取り組みは各地にあるので調べてみます。
- ・青山地域でも実際にそういう取り組みはされている。

委員長

・インバウンドについて。フジコーポレーションと連携して、忍者のセールスをしており、東映の企画担当の方も視察に来ている。

・ニューツーリズムの取り組みも「点」としてあるので、それをつなげていくといい。

・今、しかけていることを、より磨くこと、テーマ性をつくることが必要だ。「わが町」で考え、連絡協議会で実現していくような形になればいい。甲賀とは鉄道がらみで連携、名張とは赤目の観光協会と連携を。

事務局

- ・市内の観光業者さんと、緊急雇用事業で地域の資源調査、メニュー、コースづくりを次年度取り組んではどうかと思う。

アドバイザー

- ・アクションプロジェクトについてだが、国内客に対して、関西圏をぜひ意識してほしい。伊賀は三重県の地図で見ると端だが、広域の地図で見ると関西とも名古屋とも近い。それを戦略的に活かせるといいと思う。